

2009 年・初夏号

CONTENTS

特別寄稿 2
株式会社佐藤総合計画
代表取締役会長 島田孝好

特集 4-8

平成 21 年度通常総会開催される

- ・平成 21 年度事業計画
- ・定例記者会見
- ・懇親会

NEWS 2

- ・第 3 回社整審
『定期報告制度 WG』開催

トピックス 3

- ・運営委員会と企画委員会に新委員長が就任
- ・『シャッター・ドア用語集』発行

ハイライト 10

- ・H20 年度 評定登録事業の実績!

労務委員会だより 11

- ・第 2 回 裁判員制度

シリーズⅢ 12

- 安全・安心なまちづくり
第 3 回 市民活動と防犯
・東京大学工学部都市工学科
教授 小出 治

連載 シャッター物語 9

データ 13



シャッター・ドア
用語集



社団法人
日本シャッター・ドア協会



(上) 通常総会懇親会の様子
(右下) 定例記者会見
(左下) シャッター・ドア用語集

防災は人づくりから

株式会社 佐藤総合計画
代表取締役会長
島田 孝 好



安全で豊かな人間環境の創造は、我々の社会的使命であり、企業存立の原点でもあります。サブプライムローンに端を発した米景気の変調は、今まで経験したこともないスピードで世界中に大きな影響を与え、その実態経済は世界同時不況をまねいています。

バブル経済崩壊以後の失われた 10 年を乗り越え戦後最長の回復をみせていた我が国に於いても、金融市場は混乱し、株価の暴落、円高、外資の撤退は資金調達難を加速させ、不動産投資市場を開拓していた新興不動産会社を次々と破綻させ、関連していた建設業界にも大きな痛手を与え事業環境は激変しています。さらに、社会的な信頼を損なう事故や、問題が立て続けに発生し、建物の安全性に対する信頼を大きく傷つけ、企業の倫理観、品質管理、品質保証にたいする社会の目は厳しくなっています。

市場の激変は、企業のモラルやモノの価値観を不透明にし混乱の状態を生み出しますが、時代の変化にも耐えうる

付加価値の高い「ものづくり」を原点とし、それを生み出す「構想力」「技術力」を高め、そして時代の要請に的確に応えていく為の日々の研鑽と努力によってそれを具現化し、失いかけている社会の信頼を回復し貢献していくことが我々の求める姿です。

建物は社会の変化に伴い多様化、複雑化しており備えるべき性能もより高度なものが求められています。シャッター及びドアは防犯等の管理性能および防火等の防災性能を担う重要な役割を果たしており、その技術開発レベルは世界のトップクラスにあり現在も進化し続けています。しかしながら建物の構想段階から完成後の維持管理にいたるまで人の手によって行われます。感性豊かで優れた技術力のある人々によってはじめて、安全で快適な環境が実現できるわけです。現場経験を伴う技術の継承と人材の育成は今後の重要で緊急な課題であると考えています。

NEWS

第 3 回社整審『定期報告制度等 WG』開催！

国土交通大臣の諮問機関である『社会資本整備審議会（社整審）建築分科会 建築物等事故・災害対策部会 定期報告制度等ワーキンググループ』（以下、定期報告制度等 WG）の第 3 回会合が、5 月 14 日、中央合同庁舎 3 号館・住宅局会議室にて開催された。当日は、主査を務める辻本誠 東京理科大学教授をはじめ、杉山義孝（財）日本建築防災協会 専務理事、そして当協会からは委員として上野耕平 三和シャッター工業（株） 執行役員 事業戦略推進本部副本部長の他、オブザーバーとして沖村恒雄 専務理事、益子隆雄 文化シャッター（株） マーケティング部保守・点検事業推進室長が出席した。事務局となる国土交通省から

は杉藤崇 住宅局建築指導課建築防災対策室長、阿部一臣 同建築防災対策室課長補佐が出席した。

定期報告制度等 WG は、昨年 9 月 2 日に第一回、12 月 26 日に第二回の会合がそれぞれ開催された。

三回目となるこの日の議事は、「定期調査報告における防火設備の取り扱いについて」として、これまでの作業報告とそれに関する指摘事項。また、今後の検討課題として、①事故の発生確率と保守点検の必要性（リスクとコストの検証）②法定点検と自主点検の役割の明確化③（現状の）自主点検が進んでいない背景…等々が質疑を通して提起された。

次回の開催日は未定。

運営委員会と企画委員会に新委員長が就任

このほど、当協会の事業を進めていく上で要となる運営委員会の委員長に三和シャッター工業(株)の安武信雄取締役常務執行役員が、企画委員会の委員長に同じく三和シャッター工業(株)の滝原秀器執行役員がそれぞれ就任した。併せて、両委員会のメンバーと担当理事を紹介する。



安武運営委員長



滝原企画委員長

■運営委員会

役職	氏名	所属	役職	備考
委員長	安武 信雄	三和シャッター工業(株)	取締役常務執行役員	新任
副委員長	福田 伸夫	文化シャッター(株)	取締役専務執行役員	
委員	小俣 雅宏	小俣シャッター工業(株)	代表取締役社長	
委員	鈴木 和雄	トステム鈴木シャッター(株)	専務執行役員 シャッター事業部長	
委員	岡田 敏夫	東洋シャッター(株)	常務取締役常務執行役員 業務企画統括部長	
委員	川崎 一之	田中サッシュ工業(株)	執行役員営業本部長	
担当理事	後藤 忠義	(株)日本シャッター製作所	取締役社長	

■企画委員会

役職	氏名	所属	役職	備考
委員長	滝原 秀器	三和シャッター工業(株)	執行役員地区事業本部 副本部長	新任
委員	伊達 正悟	文化シャッター(株)	常務執行役員 営業推進部長	新任
委員	新井 文雄	トステム鈴木シャッター(株)	シャッター事業部 営業推進部長	新任
委員	中川 恵司	金剛産業(株)	取締役営業部長	新任
担当理事	藤田 和育	東洋シャッター(株)	代表取締役社長	

『シャッター・ドア用語集』を発行

このほど、会員にも待望されていた『シャッター・ドア用語集』が発行された。

来るべき防火シャッター・ドアの点検法制化もにらみ、シャッター・ドア製品に関わる専門的な用語も一般化を進めていかなければならない。そうした背景から、協会内に設置した「用語集策定分科会」(主査:尾登 宏幸)が、関係委員会にも協力を得てまとめ上げたもの。

A4版で77ページの構成。シャッター、ドアに関わる用語が1,169語掲載されており、中身は写真や図解も多く、見やすいレイアウトになっている。

6月はじめから、申し込みのあった会員会社などに有料配布されており、会員以外にも有料で頒布する。

今回の発行は2009年版とし、増刷の際には内容の更新を行うもので、次回の本格改訂は5年後を目途としている。

詳細は、協会事務局までお問い合わせください。



平成21年度 通常総会開催される

さる5月26日(火)午後、東京・千代田区のグランドアーク半蔵門において、当協会の平成21年度通常総会及び定例理事会が開催された。

また、総会后、日刊紙、専門紙誌の記者を招いて記者会見が行われ、夕刻からは、恒例となっている各界からの来賓と会員が集う懇親会が開催された。

第45回 通常総会

15時30分より、グランドアーク半蔵門3F「ガーネット」にて、会長、副会長、理事、監事全員出席の下、『第343回定例理事会』が開催され、引き続き『第45回通常総会』が開催された。

通常総会の議事としては、

第1号議案 平成20年度事業報告承認の件

第2号議案 平成20年度収支決算承認の件

第3号議案 平成21年度事業計画(案)承認の件

第4号議案 平成21年度収支予算(案)承認の件

以上の議案が諮られ、それぞれ原案通り承認された。

事業報告については、調査研究、普及、認定登録、講習などの定常的事業及び点検法制化、公益社団法人移行など特別事業に関する報告が行われた。

また、同会場において引き続き優秀施工者国土交通大臣顕彰受章者表彰、協会委員功労表彰が行われた(6ページ参照)。

平成21年度事業計画、組織図については6ページから8ページに掲載した。

関係紙・誌記者を招き 定例記者会見を開催

17時より、5F「シンフォニー」において、日刊紙、専門紙誌22社の記者を集めて、定例記者会見を行った。

会見には岩部会長、東田副会長、中屋副会長、沖村専務理事、後藤理事が出席し、岩部会長の現在の業界環境を含めたあいさつの後、沖村専務理事が21年度の事業計画についての説明を行った。その後、質疑応答が行われた。



▲会見を行う岩部会長(中央)

平成 21 年度 通常総会懇親会が開催される

同日 18 時から、3F「華の間」において多くの来賓と会員約 250 名が出席して、恒例の通常総会懇親会が盛大に催された。

栗原事務局長の司会により開会が宣言され、岩部会長より通常総会で新年度事業計画などが承認された旨の報告と、業界のおかれた現状を交えたあいさつがあった。続いて、来賓のあいさつに移り、中川秀直・衆議院議員、平将明・衆議院議員、太田昭宏・公明党代表衆議院議員、菅義偉・衆議院議員（到着／あいさつ順）、そして、和泉

洋人・国土交通省住宅局長より祝辞と激励の言葉をいただいた。

続いて、東田副会長の発声による乾杯を合図に歓談に移り、会員同士や来賓の方々との談笑の風景が会場に広がった。また、その後来場された田中和徳・衆議院議員のあいさつなどをはさんで約 1 時間半後、和やかな雰囲気の中、中屋副会長による中締めが三本締めで行われ、懇親会はお開きとなった。



岩部会長



中川秀直・衆議院議員



太田昭宏・公明党代表



菅義偉・衆議院議員



田中和徳・衆議院議員



平将明・衆議院議員



和泉洋人・国土交通省住宅局長



東田副会長



会場風景

平成 21 年度協会表彰

平成 21 年度は、優秀施工者国土交通大臣顕彰者として 3 名、日本シャッター・ドア協会委員会委員功労表彰として 3 名の方が表彰された。

■優秀施工者国土交通大臣顕彰受章者に対する協会表彰

地代所慶一 氏 (株)文明シャッター 八戸営業所
平野 秀彦 氏 トステム鈴木シャッター(株) 大阪支店
前田 辰夫 氏 三和シャッター工業(株) 福岡支店



地代所慶一氏
(株)文明シャッター

■委員功労表彰

小尾 勝則 氏 三和シャッター工業(株)
管理調整委員会委員、基準委員会事務局
川村 和男 氏 文化シャッターサービス(株)
メンテナンス委員会委員
町垣 寛 氏 トステム鈴木シャッター(株)
管理調整委員会委員長、基準委員会委員



平野秀彦氏
(トステム鈴木シャッター(株))



平成 21 年度協会委員功労表彰



前田辰夫氏
(三和シャッター工業(株))

平成 21 年度 事業計画

はじめに

シャッター及びドアは、建築物において防犯等の管理機能や防火等の防災機能を果たす重要な役割を担っている。当協会は昭和 39 年に社団法人日本シャッター工業会として設立以来、シャッター及びドアの性能向上や普及を通じて、より安全で安心できる社会の形成に貢献するよう努めてきた。

平成 21 年度のわが国経済は、世界的な経済不況の影響を受けて極めて厳しい状況にあるものと予想されている。建築着工についても、建築基準法の運用厳格化に伴う確認申請の遅れによる減少から立ち直れず、依然として

低位で推移しており、回復までにはかなり時間がかかるものと思われる。

一方、当協会会員が供給してきたシャッター及びドアのストックは既に膨大なものとなっている。当協会が昭和 45 年より調査しているシャッター出荷量の統計によると、重量シャッターは累計で 5 千 4 百万平米以上が供給されており、そのうち 5% 程度が滅失しているとしても、台数換算で 3 百数十万台が設置されていると推定される。また、重量ドアについては毎年その 6 倍を超える台数が供給されている。

このように膨大な量のシャッター及びドアについては、的確な点検と修理の普及により期待された機能が確保さ

れることが安全で安心な社会を形成する上で基本となる。

当協会では、平成18年度よりシャッター及びドアの点検の法制化に関し、推進本部を設けて活動してきたが、国土交通省においても平成20年度より社会資本整備審議会建築部会のもとで、防火シャッター、防火ドア等の防火設備について専門に調査を行う資格者制度の検討が行われている。

協会としては、この検討にあたって必要な資料の提供等を行うとともに、この検討の結果を踏まえた新たな制度が円滑に実施されるよう、協会をあげて協力していく考えである。

また、平成20年12月より新たな公益法人制度に関する法律が施行され、当協会も特例民法法人となっており、5年の間に公益社団法人又は一般社団法人のいずれかを選択することとなる。当協会は、公益活動をさらに充実して公益社団法人への円滑な移行を行うこととし、前年度に引き続き、公益社団法人移行特別委員会の活動を行う。

当協会の会員企業を取り巻く環境は大変厳しく、多くの課題を抱えているが、会員相互の協力によって設立の目的に掲げる各種の事業を推進するとともに、法令遵守に対する意識を高めながら社会に一層貢献していきたいと考える。

第一章 定常的事業

1. 調査研究普及事業

シャッター、ドア等に関する材料、工法、規格、品質、使用方法及び維持管理に関する調査研究等を行うとともに、その成果について資料の公表、配布を行う。

(1) 製品安全への取り組み

- ・事故報告制度の推進及び不具合情報の蓄積
- ・事故原因の分析及び対策（OHD、高速シートシャッター）の検討
- ・部品、部位毎の経年劣化に関する研究と交換基準の検討

(2) 技術基準類の改定

- ・技術標準（軽量シャッター、グリルシャッター、窓シャッター）
- ・耐風圧強度基準（重量シャッター、OHD）
- ・耐火クロス防火防煙スクリーンの耐久性基準

(3) 施工要領、点検基準類の改定

- ・点検基準（可動中柱式、袖扉連動式、グリルシャッター）
- ・施工要領（OHD）

(4) 環境問題への対応

- ・高速シートシャッターの環境負荷低減の基準の検討
- ・ドア等の塩害対策及び環境に配慮した塗装仕様の検討

(5) 防犯製品の普及・促進

- ・展示会への協賛及びパネル展示

2. 評定登録事業

シャッター及びドア並びにそれらの保守点検を行う者について認定、登録等を行う。

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ・遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法(CAS)の使用承認
- ・連動機構、装置等の自主評定（社日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と共同）
- ・防犯性能の高い建物部品の自主管理認定（警察庁等で組織する官民合同会議に参画）

(2) シャッター及びドアの保守点検を行う技術者の認定及び登録

3. 講習・研修事業

防火シャッター及びドアの保守点検を行う技術者育成のための講習会を開催する。

4. 公益性推進事業

定款に定める公益目的に即した活動を推進するため、シャッター及びドアに携わる者の資質向上、会員の拡充と会員相互の意思疎通、会員企業のコンプライアンスの確保、関連する諸団体や行政機構と提携した協会活動を行うため以下の事業を行う。

- ・スチールドア契約適正化全国研修会の開催（共催）
- ・施工資格者認定制度に関する検討
- ・労働災害発生状況、自主検査状況に関する調査
- ・会員の社会的責任のあり方に関する検討及び啓発
- ・関連団体の公益的行事等への協賛
- ・支部活動による自主研修等を通じた会員の業務水準の向上

第二章 特別事業

1. シャッター・ドア等点検法制化事業

社会資本整備審議会建築部会における検討に関し必要な資料の提供等を行うとともに、この検討を踏まえた新たな防火設備の定期調査制度が円滑に実施されるよう、

昨年度に引き続き点検法制化推進本部を設置し、協会における対応方策等について検討を行う。

また、国における新たな制度の実施にあわせ必要となるシャッター・ドアを点検する技術者に関連する事業について検討し、事業化を図る。

2. 公益社団法人移行事業

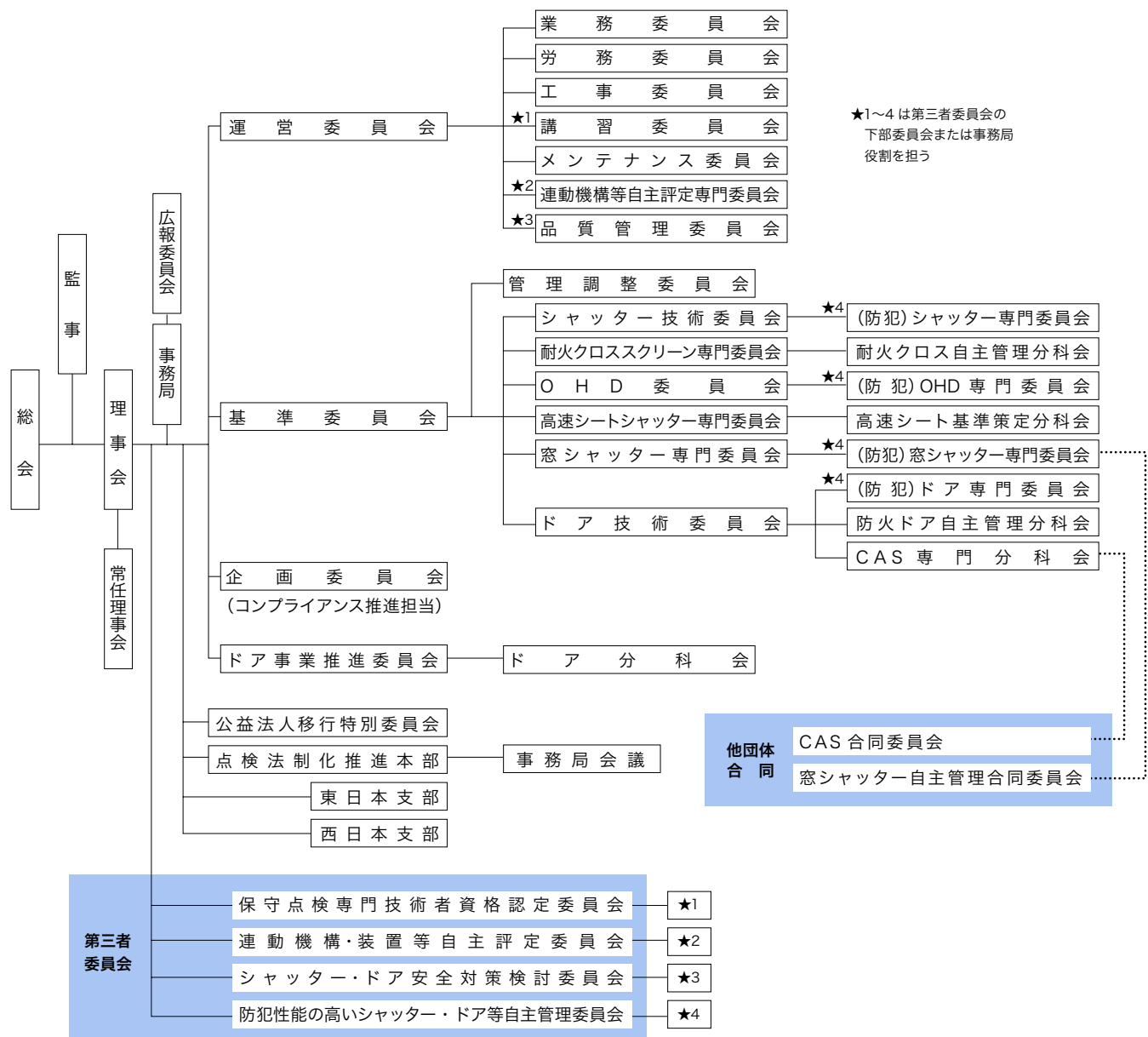
新公益法人制度の施行・適用を契機として当協会の公益活動を充実するため、昨年度に引き続き公益社団法人

移行特別委員会を設置し、今後重点を置くべき公益活動のあり方、整備充実が必要な協会組織及び定款その他の規程の改定等基本的な運営方針について検討する。

第一章及び第二章の事業を遂行するため、必要に応じ学識者、関連行政担当者、関連業務団体役職員の参加を求めて会員の協力による委員会を組織する。

また、各事業の進行管理及び日常の活動のために必要な事務局の体制を整備するとともに、その効率的な運用に努めるものとする。

平成 21 年度 運営組織図



シリーズ「シャッター物語」

日本にシャッターが輸入され、明治初期の日本銀行本店や旧横浜正金銀行（現神奈川県立歴史博物館）にイギリス・クラークバーネット社製の鋼製シャッターが設置されて以来、わが国のシャッター事業は、約 113 年の歴史を刻んできました。

今、当業界を取巻く環境は事業運営において極めて困難な状況にありますが、こういう時にこそ業界に携わる先人、諸先輩の労苦やその創造力に思いをいたし、シャッター発展の歴史を学ぶことが次世代への展望にも繋がるのではないのでしょうか。

そこで、今号より、当協会の前身である（社）日本シャッター工業会が昭和 53 年に刊行した『シャッター 100 年の歩み』の内容を抜粋するなどで、シリーズ「シャッター物語」として掲載します。

シャッター 100 年の歩み

（社）日本シャッター工業会

第 1 回 シャッターのパイオニアたち

我が国最初のシャッターがいつ、どこで誰によって設計され施工されたかはっきりとした記録は残っていないが、数少ない関連資料から判断するところ、1897（明治 29）年 2 月に完成した、日本銀行本店のものが文献に残る最初のものである。

設計は日本近代建築の先駆者、辰野金吾博士。「疊込防火鉄戸」としてイギリスのクラーク・バーネット社の鋼製シャッターが“率先輸入”の建築材料のひとつとして採用されたようだ。当時、技術の先進地域であるヨーロッパにおいて初めてシャッターとして考案されたものは、木片を綴り合わせたものであった。1837 年のことであるが、主として防犯を目的としブラインド代わりにも用いられていたようで、1862 年ロンドン大博覧会に出品され、「博覧会賞」を受けている。ちなみにこの博覧会には幕府の命を受けた使節団も参加しており、日本人として初めて木片シャッターを見ているはずである。

その後、パリ（1867 年）ウィーン（1873 年）の博覧会でも好評を博した木片シャッターを鉄製のシャッターに最初に替えたのが、クラーク・バーネット社である。一般に流通し使用されるようになったのは 1880 年頃だが、前述の日銀に採用されたのはヨーロッパの実用化から 17、18 年後のことになり、日本の洋式建築物に採り入れたスピードはかなり早いものであった。クラーク・バーネット社製のスチールシャッターのスラットは鏝のように綴られたもので、縦シャフトを用いた下部ハンドルで巻上げる方式だったようである。インターロッキング式（差込式）になるには後年のアメリカ、キネヤ社製まで待たねばならなかった。

■鈴木シャタア工業の創設者登場

明治も 30 年代半ば頃になると、イギリス人建築家ジョサイア・コンドル博士などの活躍により、洋風建築も増加し、有名建築物にはシャッターやサッシが好んで用いられ始めた。明治初期から中期には洋式建築の建築資材はほとんど輸入品であり、後に「鈴木シャタア工業」を創設した鈴木富太郎氏が経営する「建築金物商会」もその輸入建築資材を扱う会社の 1 つであり辰野金吾博士との交流も伝えられている。

日本で 1 番最初のシャッターの特許は、日本橋の伊藤常太郎商店の伊藤常太郎氏が取ったもので 1904（明治 36）年である。この時すでにスラットの嵌合はインターロッキング式（キネヤ式）になっていたという。この頃実際に製作された国産第一号と思われるシャッターは月野猪八郎氏の依頼で、横浜の梅川鉄工所が造った鏝式シャッターで月野式と呼ばれていたという。

ところで、シャッターを今日までに押し上げるにいたった 3 人の先達は、先にのべた鈴木富太郎氏・大野正氏（大野製作所創立者）・田島壺号氏（東京建鉄創立者）の 3 人である。

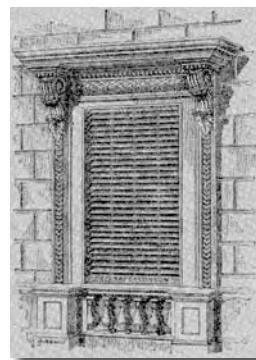
当時のシャッターはスラットの形からいえばクラーク・バーネット社に代表される英国型（鉄板の断面の上下に R をつけそれを丁番で重ねあわせるもの）とキネヤ社に代表されるアメリカ型（インターロッキング式）で、月野式も鈴木富太郎氏の「建築金物商会」も当初英国型に近いシャッターを製造販売していた。また、巻上げ装置は巻軸のシャフトに直結した歯車から鎖車に連結し、そこに鎖をかけて巻き上げたり降下させたりするものであった。

■防火シャッターの原型

一方、大野正氏は 1905（明治 37）年に「防火戸」の特許を申請する。それはまだシャッターの黎明期に発明された、人間の手を借りずにシャッター自体の重さで閉鎖し（遠心力によって広がるガバナーを設け、摩擦壁を押して制御する方法）、火災の場合は人間が操作しなくてもシャッターが閉まる（今でいうヒューズ装置の発明）という現在のシャッターの原型をなす画期的なものであった。

国産シャッターは輸入されたクラーク・バーネット社製の鋼製窓用シャッターを手本として国内でつくられはじめたものの、当初は満足な資材も部品もなかった。しかし先人達は苦心惨憺のなかで創意工夫を重ね、やがて国産シャッターは建築金物商会のインターロッキング式、大野製作所の鏝型環綴り式の 2 つの流れを形成して、日本近代建築の中でしだいに多く採用され、発展していくこととなる。

（まとめ 成松広報委員）





平成 20 年度、協会『評定登録事業』の実績！

協会では、定常的事業として所定の性能を有するシャッター、ドアなどについての認定や、保守点検資格者の認定を行っており、平成 20 年度の実績は表の通りとなった。このうち保守点検技術者の認定については、新規 1,985 名、更新 328 名となり、ここ数年増加傾向にある中でも最も多い認定数となった。累計では、6,325 名の体制となった。

■遮炎・遮煙性能防火戸（CAS）の承認

項目	H20 年度	累計
CAS0257	2 社	27 社
CAS0258	1 社	19 社

国土交通大臣認定 CAS-0257 (平成17年改正 令第112条対応)
鋼製シャッター・鋼製開き戸／複合防火設備（準耐火構造壁・床付き）
(社)日本シャッター・ドア協会 (社)日本サッシ協会
JSDA-0000

国土交通大臣認定 CAS-0258 (平成17年改正 令第112条対応)
鋼製開き戸・木質系開き戸・鋼製シャッター・鋼製折りたたみ戸
／複合防火設備（準耐火構造壁・床付き）
(社)日本シャッター・ドア協会 (社)日本サッシ協会
JSDA-0000

大臣認定品に貼付される証紙

■煙・熱感知器連動機構・装置の自主認定

項目	内容	H20 年度	累計
自動閉鎖装置	新規	1 件	63 件
	型式変更	2 件	
	軽補正	14 件	
	更新	5 件	
危害防止用連動中継器	軽補正	6 件	13 件
	更新	1 件	
連動制御盤			5 件
計		29 件	81 件

■防犯性能の高い建物部品の自主管理認定

製品名	内容	H20 年度	累計
ドア B 種	型式承認	19 件	624 件
重量シャッター	型式承認		20 件
軽量シャッター	型式承認		58 件
シャッター用スイッチボックス	型式承認		44 件
オーバーヘッドドア	型式承認		9 件
	軽微な仕様変更	1 件	
窓シャッター	型式承認		80 件
	軽微な仕様変更	1 件	
計		21 件	835 件



自主管理認定品に貼付される「cp マーク」(上)と「自主評定マーク」(下)

■防火シャッター・ドア保守点検技術者の認定

内容	H20 年度	累計
新規	1,985 名	6,325 名
更新	328 名	
計	2,313 名	6,325 名



防火シャッター・ドア保守点検
専門技術者証

認定番号 第 00000 号
交付日 2006 年 8 月 1 日
有効期限 2011 年 7 月 31 日
氏名 ○ ○ ○ ○
生年月日 1981 年 1 月 11 日

東京都千代田区九段北1丁目2番3号
社団法人 日本シャッター・ドア協会

はじめに

労務委員会では、経営者並びに従業員の皆様が会社内でかわる可能性が高い法律について紹介していきます。法律とはとかくややこしいものではありませんが、このQ&Aがみなさんのご理解の一助となれば幸いです。

第2回目として裁判員の参加する刑事裁判に関する法律（裁判員制度）について紹介します。

「裁判員制度」とはどういう制度ですか？

裁判員制度は、国民が裁判員として刑事裁判に参加し、①被告人が有罪かどうか、②有罪の場合どのような刑にするかを裁判官と一緒に決める「国民の司法参加」を実現する制度です。裁判員の仕事に必要な休みを取得することは法律で認められており（労働基準法第7条）、また、裁判員として仕事を休んだことを理由に、解雇などの不利益な扱いをすることは禁止されています（裁判員法第100条）。裁判員制度は、2009年5月21日にスタートしますが、裁判員等候補者への通知は、すでに2008年11月28日に発送されました。お手元に通知が届いている方もいらっしゃると思います。

裁判員はどのように選ばれるのですか？

<手続きの流れ>

1. 名簿の作成

各地方裁判所ごとに、管内の市町村選挙管理委員会が国政選挙の有権者からくじで選んで、翌年の裁判員候補者名簿が作成されます。（2009年分の候補者は全国で約295,000人）

2. 候補者への通知、調査票の送付（前年の12月頃）

裁判員候補者名簿に記載されたことが通知されます（就職禁止事由や客観的な辞退事由に該当しているかどうかなどをたずねる調査票同封）。調査票に必要事項を記入して返送すれば、明らかに裁判員になることができない人や1年を通じて辞退事由が認められる人は、裁判所に呼ばれることはありません。

3. 事件ごとに名簿の中からくじによる選定

事件ごとに、裁判員候補者名簿の中から、くじにより裁判員候補者が選ばれます。くじで選ばれる人数は、事件ごとに異なりますが、通常、1件あたり50人から100人程度となります。

4. 選任手続期日のお知らせ（呼出状）・質問票の送付

（原則、裁判の6週間前まで）

くじで選ばれた裁判員候補者に選任手続期日のお知らせ（呼出状）が送付され、その際、質問票も同封されます。質問票に必要事項を記入して返送すれば、質問票の記載から辞退が認められる場合には、呼出が取り消され、裁判所へ行く必要はありません。

* 質問票の内容

以下のいずれかに当てはまる人について、辞退を希望するかどうか確認されます。

- ① 重い疾病または傷害により裁判所に出頭することが困難である。
- ② 介護又は養育が行われなければ日常生活を営むのに支障がある同居の親族がいる。
- ③ 仕事における重要な用務があって、自らがこれを処理しなければ著しい損害が生じるおそれがある。
- ④ 他の期日に行うことができない社会生活上の重要な用務がある。

5. 選任手続（裁判の当日）

選任手続期日のお知らせ（呼出状）を受け取った裁判員候補者は、選任手続当日、裁判所へ行くことになります。裁判長は、候補者に対し、不公平な裁判をするおそれの有無、辞退希望の有無・理由などについて質問をします。候補者のプライバシーを保護するため、この手続きは非公開となっています。

最終的に残った裁判員候補者から6人の裁判員（必要の場合は補充裁判員も）をくじで決めます。通常の事件であれば、午前中に選任手続が終了し、午後から審理が開始されます。

裁判員等になる確率は？

1年間で、裁判員または補充裁判員になる確率は約5,000人に1人、裁判員候補者になる確率は約400人～800人に1人です。

裁判員の役割は？

有罪か無罪か、有罪ならどんな刑罰を適用するか、裁判官3人と裁判員6人が一緒に話し合い（評議）、判決を下します。全員一致にならない場合は多数決です。ただし、裁判員の意見だけでは被告人に不利益な結論は出せず、有罪の多数意見に裁判官が1人は入っていなければなりません。

事業主が行うことは？

従業員が裁判に参加しやすい環境づくり、たとえば特別な有給休暇制度を創設するなどが求められています。

まとめ

裁判員制度の円滑な運営に協力することは、企業としての社会的な責任を果たすにとどまらず、従業員のコンプライアンス意識の醸成にもつながると考えます。

国民の司法への理解を深める上でも、積極的な協力が望まれています。

〔参考資料：最高裁判所発行パンフレット・ナビゲーション〕

東京大学工学部都市工学科
教授 小出 治



平成12年前後の治安の悪化に対する対策のうち、最も顕著になったのが、市民による防犯活動の活発化であった。活動団体の数は、平成15年には3056団体であったのが、平成16年には8079団体と幾何級数的に増加した。犯罪の増加も市民の身近な犯罪、街頭犯罪であることから、市民が自ら身を守ることが重要な課題でもあった。主に町会を中心とした既存組織による活動であるが、東京などでは、当初任意の団体による先駆的活動が目立った。これら先駆的活動団体をNHKが番組「ご近所の底力」で放映するなど普及に大きな力となった。当初、町会など既存組織での対応が充分でなく、時には町会と対立しながらの活動でもあった。また、ネットによる発信活動や通勤・通学の途上での活動への参加など、従来の地縁、顔みしりの活動とは異なった新しい側面をもつものであった。その直後、「安全条例」の制定により活動団体への支援策が強化され全国的に普及していった。その活動内容（形態）は徒歩による防犯パトロール（85%）が圧倒的であり、通学路の見守りや防犯広報などを行っている。警察指導によるやや画一的活動が総体としては顕著であるが、市民ボランティア活動、活動リーダーの育成と相まって、地域独自のユニークなものも多く存在する。暴走族に焦点を絞ったものや、学童の見守りなど特定の目的をもつ活動があるなか、多数の活動は、特に特定の犯罪の減少に焦点を当てたものではなく、「市民の眼」を誇示することによる犯罪抑止を目指したものである。中にはわんわんパトロールなど、愛犬家による犬の散歩しながら防犯パトロールを兼ねたり、配達や営業の車に防犯ステッカーを張るなどのものも多くある。これら市民活動による防犯効果の判定は難しく、即断できないが、これら防犯活動がより広範囲な市民への防犯意識を高め、地域への貢献活動への参加を促したことは意義あるものと思われる。

防犯マップづくりとまちづくり

市民による防犯活動のツールとして開発されたのが「防犯マップ」である。東京都による「安全・安心アカデミー」がその嚆矢である。地域の状況の把握、現場での教育、犯罪の発生メカニズムの理解など多目的な道具として使われてきている。東京都の活動は都内の小学校でのマップづくりへと普及し、全国的にも多く利用されるまでに至っている。

当初のマップづくりの目的の中には、「まちづくり」との連携を強く意識するものがあった。

地域の環境を観察しながら、犯罪との関係の深い場所を発見し、改善への提案を試みようとするものである。平成元年頃より導入された市民参加による「まちづくり」の道具としての「まち歩き」「まちづくり」マップの防犯版である。国土交通省によるまちづくり事業との関連を強く意識したものでもある。防犯活動がパトロールを中心としたものであるのに対し、その活動を地域改善への活動に向けようとするものである。防犯灯の設置、公園の改善、維持管理などが含まれる。物的環境改善を市民が提案し事業化しようとする、この試みはより広範なステーク・ホルダーとの調整が必要となり、特に行政の資金との調整に困難さがある。

平成7年以降の犯罪状況の悪化の中、防犯対策が広範に行われてきた。その対策には従来とは異なる特徴をもつものであった。欧米で80年以降展開されてきた「防犯環境理論」の導入である。従来の犯罪者の特性に応じた防犯対策ではなく、地域の物的環境との関わりの中で犯罪を抑止しようとするものであった。公園や住宅などに対する防犯対策である。他方、市民活動の高揚による地域防犯への試みは、ややもすると従来の市民動員的特徴を持つものとなった。しかし、時代の趨勢として地域管理への市民参加・参画、あるいは協働への流れは顕著であり、地方分権化の中、今後も一層重要な課題となろう。市民が身近な地域での「出来事」に対し自律的に活動し対処することは、行政の限界を超え有効な手段として認識されてきている。防犯活動がこの流れの一端でもあり、その導入として際めて効果的なものであることも否めない。欧米において地域の質、生活の質（Quality of Life）の維持・向上のために「安全」が最大の課題であるという認識は重要である。防犯のための対処療法的な、合目的な手段として市民の広範な防犯活動を位置づけることなく、地域の生活全般に市民が責任を持つという「総合的」な活動として発展させる必要がある。

●シャッター

■過去 1 年間推移

(㎡、前年比・電動化率%)

	H20.5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H21.1 月	2 月	3 月	4 月
重 量	125,327	141,358	143,326	111,817	128,688	118,520	96,053	109,813	92,190	85,080	83,039	70,456
前年比	6.6	29.8	7.9	-8.0	0.9	-8.0	-27.5	8.3	-6.2	-30.0	-37.9	-45.9
軽 量	200,624	200,916	212,654	172,829	189,594	201,223	174,797	175,899	132,232	142,701	163,574	174,513
前年比	-12.5	-10.7	-3.9	-15.0	-7.3	-13.5	-22.9	-11.5	-12.2	-18.9	-18.2	-16.2
電動化率	25.3	25.0	25.7	25.7	26.2	26.0	26.5	25.9	25.2	24.5	23.3	22.8
グ リ ル	5,171	4,566	5,382	4,443	5,039	5,882	5,559	5,720	4,239	4,554	5,460	3,986
前年比	-17.9	-41.6	-16.1	-30.2	-30.2	-22.3	-21.3	-9.5	-13.9	-23.5	-15.8	-16.5
オ ー バ ー	14,286	17,861	18,026	17,758	22,983	21,172	18,986	19,242	16,855	19,369	16,374	15,159
前年比	-27.9	-5.0	-20.7	-9.1	2.6	-9.9	-7.8	-3.7	-5.8	0.0	-4.5	0.9
合計	345,408	364,701	379,388	306,847	346,304	346,797	295,395	310,674	245,516	251,704	268,447	264,114
前年比	-6.1	2.4	0.2	-11.5	-2.7	-10.2	-22.4	-3.3	-7.7	-20.5	-23.4	-26.4

■出荷数量年間推移 (4 月～翌年 3 月累計)

(㎡、前年比%)

	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
重 量	1,775,360	1,574,810	1,286,778	1,492,832	1,097,308	1,208,205	1,328,258	1,480,370	1,494,399	1,534,537	1,436,147	1,365,508
前年比	2.2	-11.3	-18.3	16.0	-26.5	10.1	9.9	11.5	0.9	2.7	-6.4	-4.9
軽 量	4,195,574	3,896,089	3,732,420	3,487,158	3,333,097	3,190,771	3,038,800	3,473,445	2,935,834	2,871,880	2,488,705	2,175,375
前年比	-11.3	-7.1	-4.2	-6.6	-4.4	-4.3	-4.8	14.3	-15.5	-2.2	-13.3	-12.6
グ リ ル	111,020	103,430	108,042	114,744	103,625	101,043	96,616	100,736	100,244	90,630	79,068	60,787
前年比	-2.7	-6.8	4.5	6.2	-9.7	-2.5	-4.4	4.3	-0.5	-9.6	-12.7	-23.2
オ ー バ ー	435,581	368,259	328,943	343,957	303,293	299,460	285,952	323,150	297,659	289,307	240,579	217,932
前年比	-6.2	-15.5	-10.7	4.6	-11.8	-4.7	-4.5	13.0	-7.9	-2.8	-16.8	-9.4
合計	6,517,535	5,942,588	5,456,183	5,438,691	4,837,323	4,799,479	4,749,626	5,377,701	4,828,136	4,786,354	4,244,499	3,819,602
前年比	-7.5	-8.8	-8.2	-0.3	-11.1	-0.8	-1.0	13.2	-10.2	-0.9	-11.3	-10.0

●ド ア

■過去 1 年間推移

(枚、前年比%)

	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H21.1 月	2 月	3 月	4 月
鋼製重量ドア	34,181	36,396	40,217	37,833	47,110	41,226	44,676	43,255	42,042	45,180	47,889	35,377
前年比	-29.3	-31.4	-21.7	-27.3	-18.9	-29.3	-25.0	-22.0	-17.5	-12.4	-10.9	5.0
鋼製軽量ドア	63,005	71,575	74,901	66,745	65,360	77,681	79,263	94,083	84,936	84,311	67,393	—
前年比	-4.3	-10.7	-15.7	-19.3	-6.5	-9.7	-15.3	-14.0	-14.1	-14.8	-4.5	—

■年間推移 (4 月～翌年 3 月累計)

(枚、前年比%)

	H15	H16	H17	H18	H19	H20
鋼製重量ドア	630,028	557,553	623,432	639,514	635,875	493,689
前年比	—	-11.5	11.8	2.6	-0.6	-22.4
鋼製軽量ドア	894,050	896,529	956,026	971,002	1,003,218	888,996
前年比	—	0.3	6.6	1.6	3.3	-11.4

注)・「鋼製重量ドア」は鋼製建具を、「鋼製軽量ドア」は鋼製軽量建具を指します。
 ・鋼製重量ドアは、ガスチャンバー、点検口を含みます。
 ・鋼製軽量ドアは、日本鋼製軽量ドア協議会の統計によります。



当協会では、広報誌「JSDA 会報」に掲載する「広告」と会員企業の皆様を紹介する「会員交流プラザ」の出稿を随時募集しています。

■ 広告

- ・ A4・1/2 サイズ（縦 13 cm×横 18 cm）、モノクロ 1 色：50,000 円（税込）
- ・ A4・1/4 サイズ（縦横が 13 cmもしくは 9 cm）、モノクロ 1 色：25,000 円（税込）

■ 会員交流プラザ

- ・ サイズ（縦 8.5 cm×横 8.5 cm）、モノクロ 1 色：5,000 円（税込）

お問い合わせは協会事務局（03-3288-1281）まで

「新日鉄の高耐食性めっき鋼板」

金属の腐食に頭を抱えている方、工程省略や部材のコストダウンを模索している方、

ぜひ、ご相談ください。

SUPERDYMA[®]
スーパーダイマ

with 新日鉄, to win!

新日本製鐵
薄板事業部

スーパーダイマの詳しいご案内は
スーパーダイマホームページ URL/
<http://www.nsc.co.jp/usuita/superdyma>

お問い合わせは
E-mail
superdym@hq.nsc.co.jp

地球環境対応型鋼板



住友金属工業株式会社

お問い合わせ先

〒104-6111 東京都中央区晴海1-18-11(トリトンスクエア)
薄板営業部 TEL:03-4416-6333 FAX:03-4416-6359

〒541-0041 大阪府中央区北浜4-5-3(住友ビル)
大阪薄板営業部 TEL:06-6220-5590 FAX:06-6220-5970

住友の環境対応型薄板製品シリーズ

クロムフリー表面処理鋼板

電気亜鉛めっき鋼板

スミジंकNEOコートT1

■特長

1. 導電性と耐食性のバランスに優れた性能を有しています。
2. 耐型かじり性に優れており、金型寿命を向上させます。

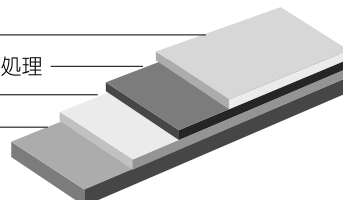
被膜構成

有機被膜

クロムフリー化成処理

電気亜鉛めっき

鋼板



溶融亜鉛めっき鋼板

タフジंकNEOコートK

■特長

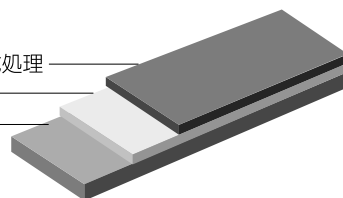
1. クロムを全く含まない特殊樹脂による新化成処理製品です。
2. 従来のクロメート処理表面処理鋼板と同等の性能を有しています。

被膜構成

クロムフリー化成処理

溶融亜鉛めっき

鋼板



ZAM

詳しくはホームページをご覧ください。

www.nisshin-steel.co.jp



日新製鋼は、ZAMを通じて お客様の無限の可能性を拡げていきます。

※ZAMとは、亜鉛-アルミニウム6%-マグネシウム3%のめっき層を持つ新しい溶融めっき鋼板です。



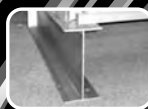
さまざまな形状が
ご提供可能です。



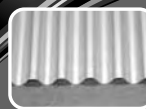
丸型鋼管



角型鋼管



溶接軽量形鋼



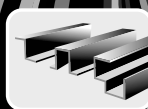
波板



ノンスリップメタル



一般構造材軽量形鋼



特殊形鋼



ブレノッチ形鋼



シャッター

用途：薄板建材全般

ZAMは、「性能」「コスト」「環境」の“トリプルメリット”。

性能

亜鉛めっき製品(当社製品名ペンタイトB)に比べて10~20倍の耐食性。亜鉛-5%アルミめっき製品(当社製品名ガルタイト)と比べても5~8倍の耐食性を誇ります。

コスト

腐食環境の厳しい用途に耐え得ることから、熱浸漬溶融亜鉛めっき(後めっき)やユニクロめっきの代替としてご使用いただくことができ、お客様の工程省略が図れます。

環境

「少ないめっき付着量で高耐食性が得られる」、「長寿命化が図れる」という観点から、省資源対応の製品としての展開が期待されています。

ちょっと高くてもお買い得、ZAM。

●建築基準法第37条第2号認定取得 ●日本住宅性能表示基準に従って表示すべき劣化対策等級(構造躯体等)の特別評価方法認定取得 ●建築施工技術・技術審査証明書取得 ●建設技術審査証明書取得(土木系材料)

日新製鋼株式会社

〒100-8366 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル TEL.03-3216-5166

小江戸川越の町並み

NHK 連続テレビ小説『つばさ』の舞台となっている埼玉県川越市。鬼瓦屋根に黒漆喰の壁、そして分厚い観音開きの扉など、類焼を防ぐ耐火建築の蔵造り商家が 30 数棟軒を連ねる「一番街」周辺は、江戸の町家形式として発達したとあって、まるで江戸時代にタイムスリップしてしまった様な妙な懐かしさが感じられます。この蔵造りの町並みは、“重要伝統的建造物群保存地区”に選定され、景観を損なわないよう新旧の建物が調和する町造りが行われており、平成 19 年 1 月には「美しい日本の歴史的風土 100 選」に選定されました。また、文化財の宝庫と称される川越の中でも城下の面影を残す「時の鐘」は、川越のシンボルとして約 400 年もの間、蔵造りの町に時を告げ続けています。



上左) 蔵造りの町並み

上右) 時の鐘

中左) 市内はレトロなバスが巡回する

左下) 商家の軒先に吊された風鈴

右下) 普段から多くの生徒で賑わう菓子屋横丁

JSDA 会報 2009 年・初夏号

発行日：2009 年 7 月 1 日 通巻第 28 号

発行者：社団法人 日本シヤッター・ドア協会

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-2-3 フナトビル 4F

tel.03-3288-1281 (代) / fax.03-3288-1282

URL:<http://www.jsd-a.or.jp>